



TITLE:

雜纂

AUTHOR(S):

CITATION:

雜纂. 日本外科宝函 1933, 10(3): 730-748

ISSUE DATE:

1933-05-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/203329>

RIGHT:

雜 纂

第34回日本外科學會總會傍聽記

評 議 員 會

星 雲 子

昭和8年3月31日午後6時カラ京都「ホテル」デ開カレタ。出席ノ資格アル者ハ(1)名譽會員、(2)名譽會長(コノ様ナ者ガアルカ無キカ知ラスガ)、(3)既ニ會長タリシ者、而シテ(4)評議員デアルデアロウガ、集ツタ所ヲ見ルト實ニ多人數デアル。コレハ『3年續ケテ缺席シタ評議員ハ止メサセラルル』トイフ評判デアルカラ、ソレデー生懸命ニ出席スルモノト推察サレル。併シ實際評議ニ參與スル人ハ少數デアル、マタソレデヨイノデアル。ケレドモ中ニハ多數ノ聽聞者ノ面前ヲモ憚ラズニ愚ニモツカヌ發言ヲスル者モアル。此ノ様ナ人ハ聽聞者ガ多ケレバ多イ程、得意ニナツテ Wortspiel ヲヤツタリ、冷汗ノ出ル様ナ所謂 Witze ヲ飛シタリ、マタ長々ト愚ナ事ヲ述ベ牛耳ヲ取ツタツモリカ何カデ得意ガルモノデアル。

此ノ評議員會デ今度新シイ試ミダト思ツタ事ハ明年ノ宿題ノ豫選方法デアツタ。即チ會長ガ前以テ會員中カラ明年ノ宿題トシテ演說セント欲スル題目ト報告者ノ姓名トヲ會長マデ申込マセテ置イテ、ソレヲ評議員會ノ席上デ披露シテ、ソノ中カラ適當ナモノヲ評議員會ヲシテ豫選セシメルトイフ仕組ミデアル。此ノ如クニシテ會長ノ手許ニ來タトシテ披露サレタモノハ次ノ3題デアツタ。

1. 急性化膿性腹膜炎諸症狀ノ本態及ビソレニ立脚スル治療方針

京都府大外科 教授 横 田 浩 吉

2. 急性腹膜炎

名古屋醫大外科 助教授 河 石 九 二 夫

3. 特發脫疽ノ非觀血性療法

新潟醫大外科 教授 中 田 瑞 穂

(次第不同御免)

此中デ(2)ハ齋藤教授カラ推薦シテ來タモノデアル。(1)ト(3)トハ自分自身カラ堂々ト名乗り出タモノデ、自信ノ程モ推察サレルガ教授タル者ハ無論カクアルベキデアル。河石助教授ノ分ハ自信ガアツタニシテモ、自分自身カラデナクテ、當該教授カラ推薦シテ來タ事ハ甚ダ美シイ。

所デ中田教授カラノ申込ミダケハ、「宿題」デモヨイ或ハ「特別講演」デモヨイ、トイフ事デアル。

此處デ端無クモ1ツノ疑義ガ評議員ノ中カラ持ち上ツタ。ソレハ『一體所謂特別講演トイフモノハ何モノデアルカ、會員ガ自ラ進ンデ特別講演ト銘打ツタモノヲ爲シテモヨイカ

マタ或ハ何人ガ特別講演者ヲ決メルカ』トイフコトデアル。

抑モ外科學會ノ演説ノ種類トシテハ會長ガスレバ會長演説、會員ハ普通ノ演説カ或ハ宿題ヲ擔當シタ場合ニハ宿題演説カノ3種類デアツテ、ソレ以外ニ會員ガ特別講演ヲスルトイフ規定ハ無イ。

特別講演トイフノハ會員外ノ人ニ、外科學ソレ自身ニ直接關係ハ無イガ併シ外科醫ガ知ツテ居ツテモ差支ヘノ無イ事項、例ヘバ外科ニ關スル社會問題トカ、外科醫業トカ、法律ニ關スル問題トカ、醫學史乃至ハ醫者ニ關スル昔噺トカノ類ヲ演説シテ貰フ場合ニイフコトデ、ソレヲコソ特別ナ(外科學ノ進歩トハ直接關係ノ無イ横道カラ出テ來タ特別ノ)講演トイフノデアツテ、外科學ノ進歩ニ貢獻スル爲ノ外科學會員ノ特別ノ研究ニ成ル特別ノ價值ノアル、即チ水平線ヲ遙カニ突破シテ秀デテ居ル特別ノ講演トイフ意味ニ誤解サレ易イ様ナ『特別講演』トイフモノハ外科學會デハ認メヌガヨイトノ説ヲ評議員ノ中カラ出ス人がアツタ。

モシモコノ様ナ意味デ特別講演トイフモノフサセルナラバ、宿題報告者トナルヨリハ、特別講演者トナツタ方が世俗的ニハ希望者が多クナルデアロウ。宿題ヲ定メルノデサヘモ評議員會デハ相當ニ骨ガ折レルノニ、ソノ上ニ會員ノ特別講演ヲ定メルナドハトテモ出來ヌコトデアル。

ソレデ結局、『本會員ノスル演説ハ宿題報告カ、ソレデナケレバ普通ノ演説デアル。此ノ2種ノ演説以外ニ特別講演ト銘ヲ打ツタモノハ存在セシメナイ』トイフコトニ決シタ。

其代リニ「自分ノ演説ニハ少々演説時間ヲ多ク與ヘテ下サイ」ト前以テ會長ヘ申込デ、會長ガヨシト認メルナラバソレニ普通以上ノ時間ヲ與ヘ、夫ヲ何分間ト規定シテ學會「プログラム」ニ印刷スルコトニ定マツタ。

コレニモ多少ノ弊害ガ伴ヒ得ルガ、併シ特別(上等ノ意味デ)講演ヲ許スヨリハ宜シイ。會員ノ演説ヲ2種ニ區別シテ大演説・小演説ナドノ銘ヲツケテ發表サセルノサヘ『學術』ヲ馬鹿ニシタ仕方デアルト氣ノ着イタ以上、特別上等ノ講演ナリトカ特別ニ獎勵ヲ受ケタ講演ナリトカノ考ヘヲ起サセル様ナ表現ハ學會トシテハ憤マネバナルマイ。今度ソレガ考慮サレテ宿題以外ニ特別(上等ノ)講演トイフモノガ出來ヌ事ニナツタノハ學會ヲ指導スル人々ノ用意ノ程ガ察セラレル。尤モ會員外ノ人ニ、或ハ會員デアツテモ外科學ノ進歩ト直接何等ノ關係ノ無イ意味ニ於テ、マタ専門的緊張ヲ緩和スル Intermezzo ノ意味ニ於テ、特別(肩ノ凝ラヌ)講演ヲ依頼スルコトハ今後モアツテ然ルベキ善イ事デアル。以上デ「日本外科學會ニ於ケル特別講演」ナルモノガ定義ヅケラレタ譯デアル。

此ノ様ナ經過デ中田教授ノ演題ハ「特別講演」トイフベキデハ無イトイフ事ニナツタ。中田教授モマタ強イテソレヲ主張サレズニ、演説時間サヘ多少タツプリ與ヘラレルナラバソ

レデヨイ。特別講演トシナクテモ、宿題トシナクテモヨイトノ事デ頗ル明朗透徹デアツタ。其人柄ノ床シサガ忍バレタ。眞個ニ俳人ラシイ仕方デアル。

ソレデ結局明年ノ宿題ハ『急性腹膜炎』トイフ題デ横田教授ト河石助教授トニ御願ヒスルコトニ豫選サレタ。

今回ハ宿題ノ申込數ガ少ク且ツ偶然ニモ同様ノ「テーマ」デアツタカラ、豫選ニ何等ノ面倒モ無カツタガ、モシモ申込數ガ多ク、且ツ種々ナル「テーマ」デアルトシタナラバ、如何ニスベキデアルカ。ドウシテモ評議員會ニ於テソレヲ投票デ採決スルヨリ他ニ道が見出ダセヌデアロウ。ソコデ評議員ガ『一生懸命ニ出席スル』トイフ事ガハジメテ意義ヲ爲スデアロウ。ソコデマタ『評議員ヲ精選スル』必要モ起ルデアロウ。理想カラ申セバ各大學専門學校等教壇ノ人ヲ漏レ無ク入レタイモノデアル。

マタ投票ノ參考トスル爲ニ宿題申込者ヲシテ評議員ノ面前ニ於テ報告セントスル事項「ヤ」研究セント欲スル事柄ヲ説明サセルコトモ必要ナルデアロウ。自信ノアル研究者ガ5人モ6人モ交々立ツテ宿題報告ノ過去・現在・未來ヲ述ベテ、評議員會ヲシテ採擇ニ迷ハシムトイフ様ナ光景ヲ呈スルマデニハ、マダマダ年數ヲ要スルデアロウガ、斯道ノ進歩ノ爲ニハ斯クノ如クナルコトヲ希望スル次第デアル。

本年ノ學會デノ新シキ試ミハマダアル。ソレハ從來追加討論者ハ自席デ名乗りヲ舉ゲ會長ノ許可デ自席デ起立シ、會長ノ方ヘ背ヲ向ケテ辯ジタモノデアルガ、ソレヲ廢シ、前以テ紙片デ發言ヲ申込ミ置キ、會長ノ指名ニテ演壇ニ上リ、會衆ノ方ヘ向イテ發言スル様ニ變更シタ事デアル。會場ノ整理上カラモ、マタ發言内容ヲ會衆ヘ徹底サセル上カラモ、ヨイ試ミデアル。獨逸外科學會デノヤリガト同一デアル。其點ハヨイガ、併シカクスルト學會ニ野趣ガ無クナル、活氣ガ無クナル、從テ追加討論ヲ抑制スルコトニモナル様デアル、少シ位野次馬ガ出タリ、脱線者ガアツテモヨイカト思フガ如何ノモノデアロウ。明年マデニ更ニ考フベキデアル。

明年ノ開會地ハ東京デ、會長ハ赤岩教授ニ豫選ガ當ツタ。會長ハ決シテ開會地ニ住居スル人デナクテモヨイノデアルカラ、既ニ1回會長ニナツタ人ハ、2度ト再ビハ會長ニセヌ事ニ極メテ、次ギカラ次ギヘト新シキ人ヲ會長ニスルガヨイト思フ。サスレバ此等ノ人々ハ當然評議員會ニ出席スルノデアルカラ、ソノ人々ダケデ充分ニ日本外科學會ノ進路ヲ指導シテ行ク事が出來ルデアロウ。此ノ意味デ宿題報告ヲ終ツタ人ニハ會長ヲ經過シタ人ト同様ニ評議員會ニ出席スル權利ヲ與ヘタガヨイ。老人連ノ中ニハ會長病ニカカツテキル人モアルラシイガ併シ同一人ガ2度モ3度モ會長ニナラス方が學會ノ健全ナル發達ノ爲ニハ望マシイ事デアル。

毎年問題ノ種ニナツテキル三宅教授寄附金ノ儀ハ今後25年間据置キ、ソノ後ニ出來ル利

子トカデ、有用ナ書籍、器械類ヲ購入スルコトニ寄附者カラ指定サレテ、ソレニ極ツタ。

優秀(ヤ)論文著者へ毎年授賞スルトイフ最新ノ計畫ニ對シテ敢然ソレヲ爭ヒ、學術研究ノ神聖サト清淨サトヲ保護セント欲スル者が現レ出ナカツタナラバ、日本外科學會ハ「バクチ」場カ何カノ様ニ變化シテ、親方同士ノ間ニ(形而上ノ)流血ノ慘ヲ見ルニ至リ、必ズ四分五裂ニナツタデアロウ。斯道ノ健全ナル發達ノ爲ニ相會シテ研究發表ヲ樂シムトイフノデアルナラバ、徹頭徹尾拘束ヲ止メテ全然自由自在ニサセルガヨイノデアル。日本外科學會ハ過去3年間實ニ危イ所ヲ通過シテ來タ。想ヘバ寒心ノ至リデアル。併シ今後ハ安神デアロウ。

論文授賞トカ、特別(上等ノ)講演トカ、大演說トカ、小演說トカノ評價ハ「眞理」ニ對スル反逆の行爲デアルガ、眞個ノ學者デ無イ者ニハソレガ判ラスノハ當然デアル。併シ學界先達ノ士ハ充分ニ留意シテ、宋人苗ヲヒクノ愚ヲ繰返サヌ様ニスルガヨイ。喝。

學 會 第 1 日

煙 波 樓

久シ振リニ京都デ開カレタ外科學會總會デアル。會場ハ帝大法經第1講堂デ、場所ハ廣ク而モ座席ガ演壇ヲ圍ンデ弧狀ニ作ラレテアツタカラ演說ヲ聽クニ都合ヨク、又色々設備ガアツテ例年ノ會場ニ比シテ數段ノ進歩ガアツタ。

例年ノ如ク會務ノ報告デ會ハ始メラレ、サテ來年ノ宿題ハ前夜ノ評議員會デ豫選シタ如ク「急性腹膜炎」報告者ハ京都府大ノ横田教授ト名大ノ河石助教授トニ決定シタ。コノ宿題ハ日常外科ノ大問題デアルカラ、ソノ仕事ノ成果ガ影響スルコロ甚ダ廣ク且大キナモノデアル。折角努力サレムコトヲ望ム。何モカモ模範的ニヤルガヨイ。至囑至囑。

5. 絶對無腐法ニ就テ

新潟大外科 家 田 三 郎

演題ハ君臨的ニ強大デアルガ、内容ハ頗ル貧弱デ人工太陽燈照射前所置ハ自働の免疫力ヲ増スカラ比較的イ、ト言フ事ダケデアツテ、絶對無腐法デモ何デモ無イ。絶對無腐法ヲ教ヘテ貰ハント思ツテ耳振リ立テ、謹聽シタノガツマラナク思ツタ。絶對無腐ヲ理想ト爲シソノ理想ニ接近センガ爲ノ井底ノ池蛙のノ自分自身ノ努力ノ一片ト『絶對無腐法ソノモノ』トハ嚴重ニ區別サレネバナラスノデアル、演題ノ掲出方法ガ羊頭のデマコトニヨクナイ、或ハコレガ時流ニ適シテキルノカ、非耶。「理論トシテ現在ノ外的條件ノミニヨル絶對無腐法ハ將來絶對無腐ニ到達スベキデアツテモ」ト考ヘタ事自體ガ抑モ間違ヒデアル。外的條件ノ考慮ノミデ絶對無腐手術ガ得ラレヤウ筈ガナク、手術的侵襲部ガ毎常必ズ *Locus minoris resistentiae* トナリ得ル事ヨリシテ其ノ際傳染化膿ヲ起ス内的因子ヲ計算ニ入レル事が必要デアル。

之ハズツト以前カラ考ヘラレモシ知ラレモシテ居ル事デアツテ、既ニ『直接免疫原注射前處置』(*L'immunisation préopératoire*) トイフ、人工太陽燈照射ノ如キ手緩キ話トハ比較

ニモナラナイ優秀ナル方法が示サレタル。外科學會ニ於テモ「外科ニ於ケル煮抗原ノ應用及ビ其ノ學術的根據」トイフ鳥瀉教授ノ會長演説ガアツタノヲ知ラヌノデアルカ。絶對無腐ノ理想ノ殿堂ニ到達センガ爲ニ20年來既ニ堂々タル關門ガ築カレテ立派ナ道路ガ開通シテキルノニソレヲ通ラナイデ人工太陽燈デ照射サレタ薄暗イ畦路ヲ歩イテ來ヨウトスルノハ近頃チト醉狂ノ様ナ氣モスル。併シ井底ノ痴蛙ガ迷ツテ來タノナラバソレデモヨイカモ知レヌ。

演者ハ、又、周密ナル嚴正無腐ヲ實施シ得ル條件ノ下ニアル有數ナル教室トシテ Kirschner 教室ヲノミ其ノ代表ニ舉ゲタガ、我國ノ各教室、殊ニ新潟ノ外科教室ハコノ外國人ノ教室ニ比シテ條件ガ劣ツテキルトナスカ。間違ツタ謙遜デアル。「サーチライト」的ニタバ遠クノミ物ヲ求メル癖ガツイテキルノデ足許ヤ日本國內ガ死角ノ中ニ消エルノデアル。數々ナサケナイ事共デハアル。明年カラハシツカリ出直シテ來タガヨカロウ。

7. 黃金色葡萄狀球菌ノ脂肪溶解性「ビタミン」ニ關スル研究

京城大松井外科 志 水 眞 澄

黃金色葡萄狀球菌ニ fat-soluble A 及ビ D ガ證明サレルトイフノデアル。コレガ外科學ト如何ナル關係アリヤ。余輩不敏ニシテ一向解ラヌ。之ヲ缺ケバ尙僂病性變性ヲ來ストイフ事ガ演説割込ノ raison d'être デアルトスレバ、又何ヲカイハンヤデアル。

同ジク Vitamin デモ次ノ演題ハ外科的ニ意味ガアル。

8. 「ビタミン」缺乏時ニ於ケル全身感染ニ依ル轉移形成特ニ急性化膿性

骨髓炎トノ關係ニ就キテ

東大青山外科 高 橋 了 介

Vitamin C 缺乏ノ際 Möller-Barlow 氏病ガ實驗的ニ起リ得ル。即チ骨ノ Locus minoris resistentiae ガ出來ル。タカラシテ、桑波多氏モ述ベタヤウー、Barlow 氏病ガ現レヌ前ニ、即チ2—7日デ、多少ノ骨膿瘍ガ出來ルトイフノハ當然デアル。此際演者ハ Vitamin Bノ先例ノ如ク、C 缺乏動物ニ於テ骨髓内ニ注入シタ造影劑ノ移動狀況ヲ檢ベ、骨端部ヘノ移動ノ遲延ヲ認メテ、急性化膿性骨髓炎發生ニ Vitamin C 缺乏ガ影響ヲ及ボス原因ハ大ナル血行流通障礙ト組織ノ損傷トニ依ルヤウニ結論シテスマシテキタガ、コノ血行障礙ガ如何ナル機轉デ來ルカトイフ事ヘ迄フレナクレバ核心ヲ捕ヘタトハ言ヘヌ。

更ニ Vitamin B 缺乏デハ抵抗力ガ減弱スルガ、一定組織ノ感染ハ認メラレヌト述ベタ。之ニ對シ小澤教授ハ、實驗動物ニ家兎ヤ白鼠ヲ供シタカライケナカツタノデ、鳩デヤレバ、少量ノ菌デ筋ニ澤山ノ膿瘍ガ出來ル、トテ脚氣ト化膿性筋炎トノ間ニ關係アルヲ述べ、藤田氏、後藤氏等ノ賛同的演説ガアツタガ、後藤氏ノ如キハ強調シャウトシタアマリデアラウガ脚氣患者ノ半數ガ筋炎ニ罹ルヤウナ表ヲ出シテ居タノハ聽衆ノ心證ヲワルクシタデアロウ。過ギタルハ及バザルガ如シ。今後ハ因果關係ノ立證方法ニ就テ思想ヲ凝ラシ相互ノ

量的關係ヲ曲線デ示ス様ニシテ欲シイ。松ノ林ヲ造ツタ所ガ松茸ガ生ヘタト言ツテ松茸ノ原因ハ松デアルトハ申サレス。此様ニ原因、結果ノ關係ヲ立證スルコトハ決シテ容易ナ事デハ無イ。自然科學ノ研究ハ因果關係ノ追及ニ外ナラス。ソレデアルノニ『松茸ノ原因ハ松ナリ』的ノ結論ノ多イノハ如何ナル理由デアルカ。畢竟因果關係ノ立證方法ニ向ツテ想ヲ潜メヌカラデアル。化膿性筋炎ノ多イ Skandinavia ニ行ツテ果シテ脚氣ガ多イカラ調ベテ見ル事モ必要デアロウ。

10. 再ビ進行性淋巴肉芽腫ニ就テ

岡大泉外科 橋 本 亨
杉 佐 助

進行性淋巴肉芽腫2例ニ就テ再ビ雙球菌ヲ證明シタトイフ演說デアル。空演說ニ終ラズ、2 年目ニマタ追撃シタ所、タノモシイ。治療ニ就テハ、病原菌ガ雙球菌デカラ「リバノール」⁷、「トリバフラビン」⁷ガ幾分効力ガアツタヤウダトノ事ダガ、折角細菌學的、血清學的ニ研究サレタノナラ序デニ免疫學的ニ進マレタライカバデアツトラウカ。3 年目ニハ此ノ方向ヘノ研究ヲ示シテ欲シイ。

茲デ想ヒ出スノハ4、5年前ノ本會デ痛ガ血清學的ニ治癒シタト稱シテヒシメイテ居ツタ人ガ有ツタガアレハドウシタカ。其後サツバリ音沙汰無シデアル。明年アタリ其後ノ治療成績ヲ報告スルガヨカロウ。

11. 耳下腺結核ノ6例

東大鹽田外科 秋 谷 良 男

折角ノ症例ヲモット活用スル事が出来ナカッタモノカ、惜シイ事デアル。

13. 「フルンケル」竝ニ「カルブンケル」ニ對スル灰白軟膏療法

岡大津田外科 菅 龍 正

標題ノ事實ハ多年軍醫諸氏ニ依ツテ確認サレテ居リ、此頃ニナツテ又流行シカケテキル。之ノ實驗の説明デアル。一體當今ノ若イ研究者ハ胃ダトカ腸ダトカノミニ興味ヲモツテ、斯ル仕事ヲ喜バヌ傾向ガアルガ、瑣事末葉ト爲スハ誤リデアル。演者ノ研究の態度ニ敬意ヲ表スル次第デアル。

17. 頑固ナル劇痛ニ對スル脊髓前側索切斷術ノ3例

熊大東外科 東 陽 一

手術不能ノ qualvoll ナ直腸癌症例ニ就テ標題ノ手術ヲ行ツタノデ、鎮痛効果ハ當然顯著デアル。コノ手術 Chordotomie ハ脊髓外科中比較の多ク應用サレ得ベキモノデアリ、イ、紹介ダト思フ。

外人ノ業績ノ單ナル追試デアルニセヨ、東教授ガドシドシ仕事ヲヤツテ行クノハ感心デアル。外科學者タル以上ハ、タバ型ノ如キ手術ヲ繰返シテキルダケデハナク、絶エズ何カヲ行ラネバイケナイ。兎角ノ批評ハアリ乍ラ齋藤教授ヤ石川教授ナドガ學者ノ圈外ニ脱出

セヌノハ間斷無く仕事ヲ續ケテユクカラデアル。

19. 腦脊髓外科ニ關スル 2,3ノ經驗

京大外科 荒 木 千 里

演題ハ斯克ノ如クツケルベシ、經驗ハ斯克ノ如ク觀察スベシ、演說ハ斯克ノ如クヤルベシトイフ模範ノ演說デ、話シガハ東教授、竹内博士ト共ニ第1日ノ白眉デアラウ。腦炎後ノ腦性上肢麻痺ニ對シテ穿顱術ヲ行ヒ腦膜間ノ癒着ヲ剝離セル局處ニ術後結核性腦膜炎ヲ起シタル例ノ如キハ、副睪丸ニ青年時結核ヲ來シ易キノ理ト Analogie ニテ、臨床的示唆多キ症例デアル。

追加 植物性神經纖維ト動物性神經纖維トノ結合ニ就テ

慶大外科 中 村 次 郎

栗 本 勝 之 進

Langley 以來交感神經ト副交感神經トノ結合ハヤラレテキルガ、表題ノ如キ實驗ノ成果ノ報告ハ以前ニハナイダラウト思フ。實驗動物ノ猫ヲ壇上ニ持ち出シテ示説シタルハ印象的デアリ、又其結論ハ明確デアル。演者ノ苦心ニモ關ラズ机上ノ猫ガ短時間ニハ巧ク反應シナカッタノヲ氣ノ毒ニ感じタ。

特別講演 末梢神經ノ損傷ニ就テ

陸軍々醫學校 竹 内 劔

前夜ノ評議員會デハ、特別講演ガ大分問題ニナツテ、抑モ會員ノ演說ニ特別ダノ普通ダノ、大ダノ小ダノ、ト區別ヲスルノガヨロシクナイ、トイフ議論ガアツタガ、コノ所謂特別講演ヲ承ツテ、余輩モ強く同感スル。述べタ所ハ別ニ卓說デモナク、而モ斯ル講演形式ヲトツタタメニ専門家ニ向ツテハ冗長ニサヘナツタ傾向ガアリ、映サレタ活動寫眞モ醫學補修會員ニデモ向ク様ナ臨床講義ノ域ヲ脱セス、濟ンダ時ニハホツトシタ位デアル。強イテ特別ヲ意義ヅケルナラバ、ソレガ演者ヲシテ多數ノ症例ニ専心サセルべく鞭撻シタ事ダケデアロウ。

但シ演者ノ眞面目ナ學者的態度ト演說振リガ立派デアツタノハ大ニ賞揚シテヨイ、敬重シテヨイ。

~~~~~

今年ノ學會デ目ニ立ツタノハ、軍陣醫學ノ演題ヲ多數見タ事デ、殊ニ第1日ハ、湯傷ノ研究——山本直一氏、滿洲事變ニ於ケル凍傷治療ニ關スル知見——後藤四耕平氏、射創後切除セル神經ノ病理組織學的研究、末梢神經損傷後ノ血管運動營養障礙——土生健久氏、末梢神經ノ損傷ニ就テ——竹内劔氏(他ニ今1題アツタガ缺席)等ガアツタ。其大部分ハ今次ノ事變ニ於ケル患者ヲ對象トシタモノデ、普通ノ Klinik デハ出來ヌ業デアル。而モ演者ノ所説、態度ハ實ニ明朗デ氣持チガヨカッタ。矢張り軍人ハ軍人ダケアル。町人式教授トハ雲泥ノ差デアル。



學會第1日ハ追加討論ガボツボツ出テ、人數ハ多數登壇シタガ、大體各自勝手ナ事ヲシヤベルダケデ、一向ニ活氣少ク、空演説ト稱スベキモノガ多カツタノハ遺憾デアル。

Priorität ダケノ爲ナラ、雜誌ヘノ發表デ事足ル。何モワザワザ遠方カラ集會スル要ハナイ。目的ハ、意見ノ發表（實驗成績ノ發表デハナイ。ナゼナラバ實驗成績ガ學問ノ本態デハナイカラデアル）ヲ徹底サセルコト、相互ノ認識不足ヲ指摘シ合ツテ Reinigungヲヤルコト、デアル。コノ簡單ナ目的ヲマダ解シ得ヌ會員ガアルト見エテ、雜誌ノ發表デ事足ルモノヲ演説スルノハマダシモ、他ヲ排シテ演壇ニ立チ得タニモ關ラズ聽衆ニ付向ケ表ヲ棒デ叩イテボソボソ小聲デ演説シテ下リテ來ル人ガアル。多數ノ會員ノ迷惑タルヤ甚シイモノデアル。

第4演者ノ角田君ナドニカ、ツテハ、壇下聽衆ナク、壇上演者ナシ、丁度12分間角田君ハ高く掲ゲタ圖表ト會話ヲシテキタ。後藤會長ハ數度演者ニ注意ヲシテ居ラレタガ、來年カラハ一歩ス、メテ、斯ル場合ハ中止ヲ命ゼラレムコトヲ望ム。會長ガソレヲ敢テセヌナラバ獨逸外科學會デ行フ様ニ會衆ガ足ヲ踏ミ鳴ラシテ其様ナ演者ノ屍ヲノックアウト「スルガヨカロウ（トハ言フモノ、議會ノ醜態ニ鑑ミテモ日本ノ學會ノ聽衆ガソレ程迄ニ判斷力ガ公正鋭敏デアルカハ聊カ疑問デハアルガ）。早晩併シ此ノ様ナ時代ガ實現サレネバナラス。今カラ會員ヲ少シジ、訓練スルガヨロシイ。

## 學 會 第 2 日

烙 白 金

### 22. 外傷ノ血糖量ニ及ボス影響ニ關スル實驗的研究

九大後藤外科 尾 形 恒 治

滿洲事變以來外傷ニ關スル研究ガ一層盛ニナツタ様デアル。昨日ハ竹内軍醫ノ臨床上ノ研究發表ガアリ、今日ハ基礎的研究ノ一端ヲ聽ク事ガ出來タノハ結構デアル。從來考ヘラレテキタ過血糖ハ末梢神經刺激→糖中樞→內臟神經→副腎ト云フ順序ヲ經テ起ルト云フ考ガ弱メラレテ肝臟內糖原ノ糖化ガ重大ナル意義ヲ有スルモノデアルト云フ多少ノ新味ハアツタガ何トナク物足りナサヲ感じタ。臨床實地トノ交渉ヲ想フニ及ンデ層一層デアツタ。

### 23. 脾臟ノ神經支配ニ關スル實驗的研究

岡大泉外科 川 西 英 雄

コノ様ナ問題ハ生理學的ニ或ハ生物學的ニハ重大ナモノデアラウガ、外科ヲ志ス者共ニトツテモ不必要ナモノデアルトハ思ハヌガ、外科學會ニハモット適應シタ問題ガアリハセヌダラウカ。演題ヲ取捨スルニハ餘程注意セネバナルマイ。

### 24. 追加 バセドウ氏病手術ノ心臟像ニ及ボス影響ニ就テ

東北大關口外科 金 田 文 平

青 木 庸 彦

如何ナル疾患デモ手術前手術後ノ狀態ヲ些細ニ比較研究スル事ハ外科醫ノ特權デアリ又

興味多イモノデアル、此ノ意味ニ於テモコノ演題ヲ面白ク聴イタ人モ相當ニアツタデアラウ。千葉醫大瀨尾外科ノ石川君ノ追加ガアツタ。即病の心臓ノ大サヲ測定スルノミデ満足セズ進ンデ機能的検査モシナケレバ片手落ダト云フ風ナ忠告的ノモノデアツタ様ニ思ハレタ、得意(?)ナ「エレクトロカルディオグラム」禮讃ヲ一席辯ジタナト云フ感ヲ受ケタゲケデアツタ。

## 25. 輸血ニヨル同種血球凝集價消長竝ニ血液型ノ安定性ニ就テ

名大桐原外科 中 根 太 郎

桐原教授ガ輸血ノ宿題ヲナサレテ以來年々本大會ニ關スル新知見ノ發表ノアルノハ誠ニ喜バシイ事デアル。今年ハ同種血球凝集價ガ輸血ニヨツテ上昇スル事多キヲ述べ血液型ニ關シ現今用ヒラレテキル 4 型デハ不充分デアルト云フ人々ガアルガ演者ハ血液型ノ分類ハ 4 型デ充分デアツテ異型ノ如ク見ラレルノハ重篤疾患ノ經過中ニアルタケダト述べタ。異型ノ様ニ思ハレルノハ元々何型デアルトノ説明ニ就テハ言及シナカッタ。實際問題トシテハ輸血ノ必要ヲ豫想サレル患者ハ術前ニ血型及ビソノ給血者ヲ撰定シテ置クカラ毫モ不便ヲ感ジタリ、マゴツイタリハセヌガ、前述ノ點ニ就テ教示シテ欲シイモノデアル。

## 26. 輸血用血液ノ機能衰退現象ニ對スル時間的考察(第2回報告)

京府大望月外科 木 口 直 二

輸血用血液ガ何時間有効デアルカハ實際問題トシテ非常ニ重大ナ問題デアル。昨年ノ研究ニ引續キナサレタモノデ自分ハ大イニ期待シテキタノニ聲ガ小サ過ギテドウモ明瞭ニ聞キトレナカッタ。誠ニ遺憾ニ思フ次第デアル。コノ様ナコトデ他ノヨイ演説ガ身代リニナツテ捨テラレタトスルト二重ノ意味ニ於テ惜ムベキコトデアル。教室主任ハ出演者ニ十分豫行演習ヲサセル義務ガアルト思フ。

## 32. 逆行性腎臓摘出術

京大外科 春 野 靜 郎

從來ハ腎臓摘出ニ當ツテハ原則トシテ先ヅ腎臓ヲ周圍ヨリ游離シ脱出セシメテキタガ演者ハ巨大ナ腎臓ヤ癒着ノ相當強イ腎臓摘出ノ際ニ最モ警戒スベキ腎臓ノ大血管ヲ先ヅ第 1 着ニ處置スルナラバソノ後ノ操作ハ比較的安心シテ續行シ得ルト云フノデアル。摘出シタト云フ事ダケデハ從來ノ方法ト同ジデアルガ一寸シタ考ヘ方ニヨツテ操作モ樂デアルシ時間モ短カシ、シタガツテ消失血液モ僅カデスムワケデアルカラ術後ノ經過ガ良好デアルニ決マツテキル。學ブベキ方法デアラウト思フ。改良進歩ニ向ツテ始終頭腦ヲ働カセテ居ラスト此ノ様ナコトハ思ヒツカヌモノデアル。

## 33. 住血絲狀虫寄生ニヨル外科的精系淋巴管ノ病變ニ就テ

長大原外科 川 代 布 治 右 衛 門

辜丸陰莖疾患ノ鑑別診斷上意義ノアル事ヲ述ブ、地方的疾病トシテ簡單ニ考ヘナイデ之

ヲ經驗セヌ人々ハコソナ機會ニ頭ニ入レテ置クト忘レナイデヨイト思フ。

# 追加 輸尿管造設術ノ可能性ニ就テ

長大外科 神 部 信 雄

總テ缺損部ヲ他ノ臟器ニヨツテ造設スルト云フ事ハソウ樂ナ仕事デハナイ、食道外科ノ宿題デ吾々モ造設術ノ困難ナ事ヲ一層ヨク知ツタ、輸尿管造設モ臨床的ニ應用サレルナラバ益スル所大デアラウ。セメテ尿道造設術ノ程度ニ迄ト思ハザルヲ得ナイ、神部君ノ今後ノ研究ヲ切望スル。

## 34. 肝臟膿瘍ノ成因補遺(實驗的研究)

熊大萩原外科 上 野 登

コノ演題ノ様ニ複雑ナモノハ餘程注意シテ出來ルダケ繁雜ナ説明ヲ避ケテ言葉ヲ明瞭ニ發シナイト聽衆ニトリテハ誠ニ迷惑ナモノデアル。加フルニ演者ノ聲モ小サクテ抄録ヲ讀ム以外ニハ殆ド何物モ頭ニ残ツテキナイ。2, 3ヶ月前カラ演説ノ稽古ヲシテ本舞臺ニ出ル様ニシタガヨイ。

## 36. 慢性日本住血吸虫病ノ外科的療法

千大瀨尾外科 瀨 尾 貞 信  
佐 久 間 嘉 一

肝臟ニ一次的ノ意義ガ有ルガ慢性ノ經過ヲトル時ハ脾臟及脾臟血管ガ重要ナル役割ヲ演ズル様ニナルト述ブ。脾腫ガアリ腹水ノアル患者ニ對シテハ誰シモ脾臟摘出術及腹水誘導術ハ思ヒ浮ブモノデアルガ演者ガ日本住血吸虫病ニ應用サレテ奏効サレタノハ結構デアル。只コノ手術ヲスルニ當ツテ種々ノ理由ガ舉ゲラレ、特ニ心臟ニ對スル意味ヲ2重ニモ3重ニモ述ベタガコレハ恐ラク演者ガコノ手術ヲ權威ヅケルタメニ強イテナサレタ事デアラウガ實際ハ特種ナ理由ニナツテイナカツタ様デアル。サモアレ全身衰弱ノ甚ダシイ患者ガ此ノ方法ニヨツテ arbeitsfähig ニナツタノハ喜ブベキコトデアル。

茲ニ注意スベキハ昨年宿題報告者トシテノ演者ハ食道癌手術ノ治驗例ヲ多數ニ述ベタニモ拘ラズ、1ツノ證據ヲモ提出シナカツタノニ、今年ハ此ノ手術ニヨツテ快癒シタ患者3人ヲ供覽シタ事デアル。無イ袖ハ振ラレヌノ譬ノ如ク有リサヘスレバ振リ得ルノデアル。從テ振ラヌノハ無イ證據トセネバナルマイ。コソナ事ハ些細ノ問題ノ様デアルガ信用ノ度ニ大イニ影響スルモノデ演者ノタメニ喜ブベキ事デアルト思フ。

## 38. 自家考案ノ「プノイモグラフィ」ノ臨床的應用特ニ潜伏性肺虚脱ノ

### 早期診斷ニ就テ

臺北醫專外科 石 山 福 二 郎

演者ハ昨年ニ引續キ肺虚脱ノ早期診斷ニ對シテ自家考案ノ「プノイモグラフィ」ニ就テノ臨床的研究ヲ發表シタ、演者ノ堪エザル努力ニ敬意ヲ表スル。

肺臟外科モ先年石川教授ノ宿題報告ガアツテ以來段々進歩シタ事ハ喜ブベキデ石山氏ノ「プノイモグラフィ」モコノ肺臟外科ニ對シテモ大ナル貢獻ト云ツテヨク、特ニ同時ニ兩側ノ胸廓運動ヲ曲線デ描カシメ數量的ニ比較出來ル事ハ誠ニヨロシイ。兎角本大會ニ於

テハ診斷ニ關スル研究發表ハ少イノヲ遺憾ニ思ツテキルガコノ研究ノ如キハソノ意味ニ於テモ推賞サルベキモノデアル。石山教授ノ如キ小壯有爲ノ學者ヲ持ツコトハ學會ノ誇リデアル。

### 39. 氣管枝痙攣ヲ外科の手術ニヨリ除キ得ルヤ 阪大小澤外科 星 野 崎 道 郎

氣管枝喘息ニ對スル外科的處置モソノ本態ガ不明ノマ、少シヅ、進歩シテキル様デアル。本年モ亦氣管枝喘息ノ原因ノ 1 ツデアラウト考ヘラレテキル氣管枝痙攣ガ問題トナリ、演者ハ實驗的ニ外科的侵襲ニヨツテハコノ痙攣ハ絶滅出來スト述ベタ。聞キ様ニヨツテハ氣管枝痙攣ガ喘息ノ一義の原因ト考ヘラレテキルト推察サレル柳教授ノ好キナ Kümmell 氏手術ヲ皮肉ツタ様デモアル。コレニ對シテ柳教授ハ頗ル自信ノ無イ様ナ發言ヲシタガ昨年ノ宿題報告者タリシ柳教授トシテハ何トナク物足りナサヲ感ゼシメタ。更ニ小澤教授ハ追加シテ自分ノ研究目標ヲ述ベラレタガ別ニ變ツタ目ノツケ所デモ無イ様デアツタ。

兩教授ノ今後ノ奮闘ヲ切望シテ止マヌ。

### 41. 肺結核特ニ空洞ヲ有スル結核肺ノ手術方針ニ就テ

京大外科 庄 山 省 三

演者ハ 1 治驗例ヲ示シテ現今肺結核ノ外科的療法ハ種々アルガ特ニ空洞ヲ有スル様ナ場合ニハ肺剝離法ガ最も理想的ノモノデアル事ヲ高唱シタ。平壓開胸術ガ Einwandfrei トナツタ今日如何ニ手術ガ簡單ナカラト云ツテ横隔膜神經捻除術ヤ又患者ノ負擔ノ多イ胸廓成形術ナドヨリモ剝離法ガ最も善イト云フ事ハ承認セザルヲ得ナイデアラウト思フ、只剝離法サヘ行ヒ得ナイ場合ニノミ窮餘ノ一策トシテ肺廢用ヲ目的トスル胸廓成形術ノ類ヲヤツテ見ルノモヨイデアラウ。追加トシテ千葉醫大瀨尾外科ノ佐久間君モスベテノ肺結核ニ捻除術ハ有効デナイト云ヒ、小澤外科ノ武田君ハ肺結核外科的療法ノ良、不良ハ手術方法ノ撰擇ガ必要デアルト述ベタ。ケレド有効デナカラウカドウダラウカラ憂ヘタリ、撰擇ニ迷ツタリセズニ、空洞ヲ有スル様ナ場合ニハ先ヅ理想的ナ肺剝離法ヲ行フベキデハナカラウカト思フ。

岡山榊原君ハ外科醫ノ許ニ來ル肺結核患者ハ非常ニ強度ノモノデ肺剝離術サヘ行ヘストノ理由デ胸廓成形術ヲナシテ好成绩ヲ舉ゲタ例ヲ報告シタ、ソレダカラト云ツテ最初カライキナリ胸廓成形術ヤ其他類似ノ肺廢用手術ヲ行フノハ不法デアル。先ヅ兎モ角モ演者ノ主張スル胸腔内肺剝離法及ビ人工氣胸ヲ行フベキモノデアル。是ガ即チ學術的主張デアル双方ハ混用ヲ許サヌモノデアル。

### 42. 肺臓癌手術治驗

京府大横田外科 横 田 浩 吉  
櫻 井 雅 四 郎

本邦デハ稀有ナ治驗例デ平壓開胸術ト適當ナ「ブラーン」ノ下ニ處置サレタ高唱スルニ足ル治驗例ダト思フ。立派ニ1ツノ術式トシテ提唱サレテヨイ様ニ思フ。演者ハ餘リニ遠慮シ過ギタ嫌ガアル、今少シ堂々ト論ジテヨイト思フ。

#### 43. 結核性胸圍寒性膿瘍ノ手術方法ニ就テ 京大外科 武野周一

鳥潟教授ノ「イデー」ニ成ル結核性胸圍寒性膿瘍ノ手術ニ就テ鳥潟教授ノ教室カラ伊藤肇氏が1923年ニ改良法ヲ報告シテカラ既ニ10年。演者ハ從來ノ如ク開放性ニ處置シタモノトコノ改良法ニヨルモノトヲ比較シ後者ノ方が遙カニ優ツテキル事ヲ證明シタ。膿瘍ヲ膿膜ト共ニ全部切除シテ健康組織ヲ露出シ由テ生ジタル組織缺損部ノ空洞ヲ周圍ノ筋肉デ充填シソコニ體液ガ滯溜セヌ様ニスルカラ輕度ナ混合感染ノアル場合デモ1期癒合ヲ營ムノデアラウ。丁度吾々が植皮ヲスルニ細菌感染ノアル肉芽組織上ニモ上皮ヲ密着セシメルト細菌ヲ保有シテキル體液ガ滯ル事ナク全身性ニ灌流サレテ移殖サレタ上皮ガ感染ヲ免ガレテ植皮術ガ成功スルノト同ジデアルコトハ毎常鳥潟教授ノ述ベラレル如クデアル、此ノ治療法ハ今ヤ理論的ニモ實地上ニモ立派ニ基礎ヅケラレタモノト稱シテモ決シテ過言デハナイ。外科治療方面ノ進歩ノ著明ナモノ、1ツニ算入シテモ決シテ不當デハアルマイ。併シ此處マデ來ルニハ鳥潟教授ハ既ニ明治40年頃ニ此ノ手術ヲ始メ今日迄間斷無ク考察ヲ續ケテ居ラレタノデアル。決シテ一朝一夕ノ故デハナイノデアル。後進者ハ大ニ參考トナスベキデアル。

#### 44. 虫様突起炎ト嫌氣性菌ニ就テ 岡大津田外科 清水勝

演者ノ細菌ノ分類ニ對シテノ根氣ヨキ努力ヲ多トシナケレバナラス。ウエルシュフレンケル氏菌ノ檢出率ガ昨年ノ約2倍80%ニナツタ、ソシテコノ菌ハ虫様突起内ニ於ケル常住菌デアラウト結論シタ。今迄ハ緒論デ此カラ本論ニ入りコノウ氏菌ガ虫様突起炎ノトキドンナ役割ヲ演ズルモノカノ研究ガシテ欲シイモノデアル。臨床實地ニ向ツテ自分ノ研究ガ如何ナル意義ヲ有スルカラ省察シテホシイ。此ノ如クニシテ汗水流シタ研究者ガ自ラ悲哀ヲ感ジナイモノガ果シテ幾人アリヤ。敢テ問フ、演者モ亦然ルヤ否ヤ。

#### 45. 急性虫様突起炎ノ病理組織學的研究(第1報) 慶大外科 土方久顯

アショフ氏ノ立テタ虫様突起炎初期病變ノ病理組織ニ關スル意見ニ異論アルニ「ヒント」ヲ得テ何事カ新シク求メヨウトサレル意氣ハ壯トスベキデアラウ。即炎症ノ一元的進展說ニ對シテ進展ハ途中ニ於テ2途ニ分レル事ヲ明ラカニサレタ様デアル。サレバ演者ハ時間ヲ以テ早期手術ナドト云フハ當ヲ得テキナイト述ベタ。コノ事ハ一般的ニ承認サレテ居ナイタメカ演者ハ「發病後24時間内ニ切除サレタル約250例ノ早期例」ニミ云々「ト明カニ時間ヲ以テ早期手術ヲ云ヒ表シテキルノガドウモ腑ニ落チヌ。不可ノ事ガアレバドシ訂正スル様申出ラレタラヨカラウニト思フ。折角時間ト費用ト精力トヲ傾倒シテ研究シテモソレ

が結局『人世』ニ向ツテ何事ヲモ貢獻セヌ様デハツマラスコトデアル。研究悲哀團員トシテ終始セヌ様要心アルベキナリ。

## 追加 2 蟲様突起ノ淋巴管系ニ關スル研究 (第3報)

蟲様突起炎ニ於ケルソノ淋巴管系ノ意義 京府大外科 河 村 謙 二

蟲様突起炎ニ於ケル淋巴管ノ意義ニツイテノコノ報告ハ前演者ノモノト密接ナ關係ガアル様デ淋巴管ノミ研究ノ對象トスル所ニ前者ハ總論、後者ハ各論ト云フ感ガスル。今迄コノ演者ニヨツテ兎ノ蟲様突起ノ一般淋巴管系ヲ厭ト云フ程聞カサレクノデ愈々本論ニ這入ツタナト思ハレタガ尙例數モ少ナク今後一段ノ努力ヲ望ム。

コノ蟲様突起炎ノ問題ニ横濱病院須藤氏ノ追加ガアツタ、即蟲様突起炎患者95例中30例ニ於テ臨床的ニ胸部右側下部ニ呼吸音弱、打診の短ナル症狀ガアリ、根治手術後ニコレノ症狀ガ消失シタ事ヲ述ベ何カ兩者ノ間ニ關係ガナカラウカト云フノデアル。吾々モ統計的ニ觀察シタワケデハナイガコノ演者トヨク似タ例ヲマ、經驗シタ様ニ思フ。開業醫ノ常トシテ研究スルコト云フ事ハ困難デアルカモシレヌガ須藤君ノ様ナ心持ハ賞スベク誰モガ學ブベキモノデアラウト思フ。

## 46. 解剖學的生理學的竝ニ臨床的見地ヨリ見タル腹腔「ドレナー ジュ」ニ就テ

名大齋藤外科 河 石 九 二 夫

腹腔ノ解剖的關係ヨリ腹腔ノ内壓、高低ノ場所ヲ述べ、腹腔内ニ像影劑ヲ注入シテソノ流レ方ヲ檢索シ「ドレナー ジュ」ハ如何ニスベキカヲ述ベタガ之ハ昨年本大會ニ於テ教室ノ藤浪君ガ發表シタ研究ノ追試ト見做シテヨク、盛澤山ノ割合ニ内容ハ貧弱デアツタ。

追加ニ大連近森君ハ恢復ノ見込ノ無キモノニ對シテ好成績ヲ舉ゲタ排膿ト麻痺シタ腸ノ内容排除ヲ目的トスル療法ヲ述ベタ。内容ガ傾聴ニ値スルニモ拘ラズ追加討論ノ出ナカツタノハ惜シイコトデアツタ。

尙番外追加ニ佐久間君(瀨尾外科)ハ末期腹膜炎ノ場合ニハ往々急性胃擴張ヲ來スモノデアルカラコレニ對シテ Gastrostomie ヲ行ヘバ心臟ニ好影響ヲ與ヘルト同時ニ度々行フ胃洗滌ノ繁雜ヲ避ケラルト云フ、之モ確カニ一法デアラウケレドモ我々ハ排膿ヲ合理的ニ行ヒ麻痺セル腸ニ蠕動ヲ起サスベク全力ヲ盡ス事ニヨツテ相當ノ効果ヲ得ラルカラ左程胃痙攣形成ヲ痛切ニ感ゼヌ。

ドンナ疾患ニシロ手術的操作ヲ目的トスル以上心臟ヲ重大視セヌ人ハ無カラウガ瀨尾外科ノ様ニ何ニデモ心臟ヲ持チ出サナケレバオサマラスト云フノハ珍シイ。

昨年宿題ノ食道手術ヲスル際ニコノ心臟ガ直接大邪魔物デアツタラウ事ヲ思ヒ合セルト奇異ニ感ゼヌデモナイ。新潟中田教授ハ得意ナ腹窓ニヨツテ腸管運動ニハ銀性「ドレン」ガ最も障害少ナク「ヨードホルムガーゼ」ガ一番具合惡イトノ追加報告ガアツタ。腹膜炎ニ就

テノ問題デ大分賑ツタガ幸ニ明年ノ宿題ハ急性腹膜炎デアル。熱心眞面目ナル横田・河石2少壯學者ガ報告者ニ選バレタ事ハ學會ノタメ慶賀スベキデアツテコノ1年間ガ待ち遠イ氣ガスル。某老大教授ノ馬鹿ゲタ宿題報告ハ思ヒ出スダケデモ胸ガ惡イ、今年ハ宿題報告ガ無カツタノダト思ヒ度イ。ソレダケ明年ノ報告デ埋メ合セヲツケテ欲シイ。報告者ノ健康ト奮闘トヲ祈ツテ止マス。

特別講演 外科領域ニ於ケル<sup>1</sup>ヒスタミン<sup>2</sup> 阪大岩永外科 岩 永 仁 雄  
竹 林 弘

演者自身が申込デサレタノカ或ハ推薦サレタノカ知ラスガアレデハ未ダ講演ヲスルニ早過ギルト思ハザルヲ得ナイ。『此ノ點ハ將來ノ研究ニ俟タネバナラス』ノ連續ダ、終ニハ演者自身モ苦笑シナガラ云ツテ居ツタ様デアル。マコトニ特別講演ガ泣キ出シソウデアツタ。『特別講演』ト言フノハ『特別時間ノ長イ未熟研究ノ講演』ト言フコトノ略稱デモアルマイ。明年ナリ明後年ナリ或ハ5年後ナリ10年後ナリニ充分ニツキトメタ研究<sup>3</sup>ヲ發表シテ充分ニ尻拭ヒヲスル覺悟アリテ然ルベシ。學者ノ一分相立タヌ様デハマカリナラス。特別講演ノ名ノ手前今後トモ死物狂ヒデ努力セヨ。

### 學 會 第 3 日 天 王 星

49. 食道靜脈瘤ニ就テ 千葉大瀨尾外科 中 澤 美 志 郎

普通アマリ注意サレナイモノデアルガ、演者ノ云フ如ク門脈系ノ循環障碍ノ場合ニ早發症狀トシテ現レ、ソレガ確實ニレントゲンのニ證明シ得ルモノデアレバ、肝硬變ノ有力ナ1 診斷法トシテ注目スベキ事ト考ヘラレル。尤モ實際ハ肝硬變症ガ之ニヨツテ始メテ診斷サレテ手術サレルトカ、之丈ケガ手術適應乃至豫後ノ判定ノ基礎トナルト云フ様ナ場合ハ少イデハアラウガ。

51. 胃排出異常ト蛋白特異動力作用 北大柳外科 澤 田 平 十 郎

幽門癌ト良性幽門狹窄トデ蛋白特異動力作用ニ著シイ相違ノアル事ハ面白い事實デアル。又切除吻合等ノ胃手術後ニ於ケル身體ノ變調並ニソノ恢復ニ就テ特異動力作用ヲ指標トシテ研究シタノモ面白い。一般ニ手術後ニ於ケル局處性或ハ全身性ノ機能狀態、謂ハバ手術後生理學ト云フ様ナモノハ、從來モ研究ガアツタガ今後モ種々ノ方面ヨリ旺シニ研究サルベキモノト思フ。特ニ胃ナドデハ色々興味アル事實ガ出テ來ル事ト思ハレル。

52. 胃粘膜ノ自家消化ニ就テ 九大赤岩外科 爲 末 博

從來ノ<sup>1</sup>ペプシン<sup>2</sup>、<sup>3</sup>トリプシン<sup>4</sup>消化ノ外ニ、更ニ胃潰瘍發生ニ對シテ<sup>5</sup>カタペシン<sup>6</sup>消化ガ重要ナル役割ヲ演ズル事ヲ力説セル點、良イ思付デアル。尙今後ノ追試ヲ要スルデアラウガ、兎ニ角優レタ業績デアル。

54. 横行結腸切除術ノ適應症ニ就テ 金澤大石川外科 神 戸 恒 夫

横行結腸が高度ニ延長下垂シテ慢性便秘ヲ來シテ居ル場合ニ療法トシテ切除術が最モヨイトノ演者ノ所説ハ充分背ク事ガ出來ル。唯實際上横行結腸ノミガ延長下垂シテ居ル場合ハ比較的少ク、盲腸、上行結腸或ハS字狀結腸モ同時ニ延長シ過度ニ移動性デアル場合ガ多イ。從ツテ實際ハ横行結腸ノミノ切除デハ不充分デアツテ、横行結腸ノ一部ト共ニ右或ハ左側ノ半側結腸切除ヲ行フ方ガ効果確實デアル様ニ思フ。

#### 56. 高位直腸癌手術術式ニ就テ

京大外科 藤 浪 修 一

#### 57. 追加 腸々吻合ニヨツテ生ズル腸間膜間隙ニ就テ

京大外科 岩 城 達

何レモ京大外科カラノ演題デアルガ、此等ノ事項ニ就テハ各大學ノ「クリニク」ニ於テ何等カノ意見ナリ方法ナリヲ持ツテ居ナイ筈ハナイト思フ。斯フイフ機會ニ諸家ノ意見ヲ聞イテ見タカツタガ、僅ニ前者ニ就テ大島氏ノ追加ガアツタ丈ケデマルデ反應ノナカツタ事ハ甚ダ物足りナイ感ガシタ。

腸間膜間隙ノ問題ニシテモ誰モ之ヲ考慮シテ居ナイノカ如何カ。後述ノ鹽田教授ノ宿題報告中ニモ手術後「イレウス」ノ項ガアツタニ拘ラズ、腸間膜間隙ニ就テハ全然述ベラレナカツタ。ソレトモ之ニ就テ全然無定見ナノデアラウカ。近來ノ外科醫ハ診斷治療方面ニハ多クノ關心ヲ有セヌ様デアルガコレハ憂フベキ傾向デアル。

#### 58. 腸血行ト腸運動トノ關係、並ニ數種藥物ノコレニ及ボス影響ニ就テ

京府大横田外科 町 田 昌 直  
山 本 明 治

出色ノ業績デアル。急性腹膜炎其他一般開腹術後ノ病理及ビ療法トモ關係シテ、教ヘラレル所ノ多イ實驗デアル。

#### 追加 腸運動ト腸血行トノ關聯ニ就テ

新潟大中田外科 田 中 憲 二

之モ前者ト略同様ノ趣旨ノ様デアツタガ、唯腹窓法ニヨル研究デアル。腹窓法ハ誠ニ卓拔ナ面白イ方法デアルガ、始メ之ハ面白イ、色々面白イコトが見付ルダラウト期待シタ割ニハ案外大シタ事モナイ様デアル。尤モ未ダ研究ノ途上ニアルカラ今遽カニ論斷スル譯ニモ行クマイガ、要スルコレハ qualitativ ノ研究ニハ適スルガ quantitativ ノ研究ニハ比較的の不便ナノデアアルマイカ。既ニ最早ヤ行詰リツ、アルカノ如キ感ヲ與ヘルノハ遺憾デアル。

#### 宿題報告 腸閉塞ノ病因ニ就テ

京城大 小 川 教 授

斯ル課題ノ下ニ宿題ノ報告セラレルノハ外科學會トシテハ最初デアラウ。宿題報告ノ動物實驗ノ部分ガ臨床ノ部分ニ比シテ次第ニ多クナツテ行クノハ近年ノ趨勢デアルガ、診斷治療ニ殆ンド無關係ニ純然タル動物實驗ヲ以ツテ終始シタモノハ今回ガ始メテデアル。從



來ノ考方カラスレバ之ガ特ニ「外科學會ノ宿題報告デアル」ト云フ特色ハ殆ンド見出サレナイ。内科學會ニハ此種ノ宿題報告モ珍シクナイ様デアルガ、要スルニ研究ガ次第ニ行詰ルト斯ウナツテ來ルノデアラウ。必ズシモ外科學ノ進歩ヲ意味スルモノデハナイ。尤モ何等カ卓絶シタ獨創ノ見解トイフノデアレバ別ダガ、惜シイ哉今回ノ小川教授ノ報告内容ハ鹽田外科齋藤氏ノ説ヲ補足敷衍シタ程度ノモノデ創意的ノ部分ハ少イノデアル。殊ニシキリニ「ヒスタミン」ヲ「イレウス」毒トシテ云爲サレルニ拘ラズ、ソノ直接的ノ證明ガナイ爲ニ非常ニ廻リクドクテ少シク齒痒イ感ガナイデモナカツタ。ソノ點岩永教授ノ特別講演ノ方ガ「ヒスタミン」ヲ直接定量シテ居ルダケ、端的デ話モ樂ノ様デアツタ。

「イレウス」ト云ツテモ實驗ノ閉塞性「イレウス」デ、ソレモ主トシテ小腸上部ノ「イレウス」デ、臨床上最モ多ク遭遇スル下部腸管ノ殊ニ絞扼性「イレウス」ニハ觸レテ居ナイ爲ニ實地上ノ意義ハ比較ノ少イ。マシテ之ヨリ何等カ診斷治療上ノ方針ヲ誘導シヤウト云フ様ナ事ハ一寸望マレナイ様デアル。更ニ高位「イレウス」ニ關スル丈ケデモ、ソノ死因ガコノ報告ニヨツテ決定的ニ解決サレタトハ勿論云ヘナイノデアル。同ジ様ナ事ヲヤツテ居ナガラ岩永教授ト小川教授トデ實驗成績ニ幾多ノ相違ガアル。各々ソレ相當ノ根據ニヨツテ結論サレタデアラウガ、前者ガ「イレウス」死ノ原因ヲ閉塞上部腸管内容ニ求メラレルニ對シテ、後者ハ下部腸粘膜ヲ以ツテ毒素發生地ト唱ヘラレルト云フ様ナ正反對ノ結論トナツテ居ル。殊ニ小川教授ガ消化液灌流杜絶ノ結果トシテ下部腸粘膜ニ毒物ヲ產生スルト云ハレル事ニハ、臨床ノ立場カラモ幾多ノ異論ガ出得ルデアラウ。

57勝尾君ノ演説ニヨレバ小腸ノ大部分ヲ曠置シテモ犬ハ長時日ノ生存ニ堪フルガ故ニ高位腸閉塞ノ場合ニ小腸ノ上部ト下部トヲ吻合シテモ不合理デハナイト云フ。事實、吾々が廻腸ノ比較ノ廣汎ナル部分ヲ曠置シテモ中毒症狀ラシイモノハ現レナイ。又腸閉塞デ姑息的ニ空腸瘻ヲ造置スル場合ニモ下部腸管ヨリ毒物ヲ生ズルト思ハレル様ナ症狀ハ呈シナイ。此等ノ事實ハ小川教授ノ所説ニ反對スル様ニ思ハレル。何レニシテモ此問題ニ就テハ尙多クノ議論ノ餘地ガアルデアラウ。從ツテコノ宿題報告ニヨツテ實地的ニ教ヘラレル事ノ極メテ尠イ事ハ否メナイ。

然シ兎ニ角宿題報告者トシテ小川教授ガ眞面目ニ努力サレタ跡ハ充分認メラレルシ又態度其他モ眞摯デ之等ノ點吾々ハ敬意ヲ表スルニ吝デナイ。

## 宿題報告 「イレウス」ノ診斷ト治療

東 大 鹽 田 教 授

之ニ就テハ少シク多クヲ述ベテ見タイ。吾々ハ此ノ題下ノ報告ニ何等カ新シイ事實ノ紹介サレルデアラウナドノ事ハ始メカラ大シテ期待シテハ居ナカツタ。吾々ハ從來既ニ知ラレテ居ル診斷法ナリ手術法ナリデモ少シモ差支ナイガ、唯ソレガ練達老巧ナル鹽田教授ノ豊カナ經驗ト透徹セル觀察ヨリ見テ、如何ナル實際上ノ意義乃至効果ヲモツモノカ、換言

スレバ從來ノ種々ナル方法ノ經驗的批判ヲ聞キタカツタノデアル。サスレバ假令何等新事實ガ紹介サレナクモ充分宿題報告トシテノ意義ヲモツ。然ルニ斯ル期待ハアマリーモ慘メニ裏切ラレタ。吾々ハ専門分科タル外科學會ニ於ケル學術講演ヲ聞イテ居ルトイフ氣ガシナカツタ。素人相手ノ通俗講演、セメテ田舎ノ醫師會ノ講演ヲ聞イテ居ルトイフ氣持シカシナカツタ。

要スルニ吾々ノ知り得タ事ハ結局「イレウス」ノ診斷ニシテモ手術ニシテモ『經驗ト老練ニヨル外ナイ』ト云フ事デアル。經驗ノナイモノハイクラ頭ヲヒネツテ綿密ニ診テモワカラヌ、老巧ノ士ハ2、3間離レテ見テモ直グワカル、若イ先生達ガ手術ヲヤレバ大先生ニ較ベテソノ成績ニ雲泥ノ差ガアル、等々ニ就テ力説サレル。

純粹科學ト異ツテ醫學特ニ臨床醫學ガ經驗科學デアル以上、經驗ノ必要ナコトハ解リ切ツタ事デアル。然レ乍ラ苟クモ外科學ガ學トシテ存在シ發達スル要件ハ、經驗ヲ漠然トシタ神秘的ナモノトシナイデ之ヲ科學的ニ吟味シ整理スルニアルノデアル。經驗ヲ積ンダ人が2、3間離レテ一眼見テモ「イレウス」ト診斷シ得ルノハ如何ナル據所ガアルカラカ、(遠クカラデモ解ル様ナ所見ナラドノ教科書ニモ書イテアル様ナコトデアラウシ、經驗ノナイ初心者ニモ解ル事ト思ハレルガ?)又經驗ヲ重ネテモ診斷ガ困難トイフノハ如何ナル場合ガアルカラカ。若イ先生達ノ手術成績ガ惡イノハ適應症ノ上ニ或ハ術式上如何ナル過誤ガアルカラカ。之等ニ就テハ吾々ハ少シモ教ヘラレナイノデアル。唯經驗々々ト云ハレル。ソシテ昔ニ比較シテ多少手術死亡率ガ改善サレタトカ、鹽田外科ノ成績ガ最モヨイトカ、鹽田教授自ラ執刀サレタ成績ハ更ニヨロシイトカ云フ様ナ點ノミ力説サレル。何故ニソウナノカ。之モ要スルニ經驗ノ結果トイフノデアラウ。

同一手術適應ノ下ニ同一術式ニヨツテ行ハレタ手術ノ成績ガ甲ノ人ト乙ノ人トテ多少ノ差違ガアツタトシテモ、ソレハ手術技術ニ關スルモノデ、學問トシテハ凡ソ大シタ意味ハナイノデアル。鹽田教授ハドノ手術適應法ガドウ、ドノ術式ガドウト云フ様ナ事ハ殆ンド眼中ニ置イテ居ラレナカツタ様デアルカラ、結局コノ手術技術ノ老巧圓熟ノ以ツテ主眼トシテ居ラレルノデアラウガ、サリトハ非學術的ナルモ甚シイト云ハネバナラス。甲ノ人ハ30分デアル手術ヲアルノニ乙ノ人ハ10分デアルト云ツテ威張ルノト同軌デアル。

外科學ノ進步ノ判斷ハ診斷方法トカ手術術式ノ改善進步ニヨツテナサルベキモノデアル。之ヲ度外視シテ「日本ノ文化ト共ニ進歩シタ」モノイモノデアル。

統計ノトリ方ニシテモ、單ニ漠然タル全體ノ死亡率バカリヲ云々シナイデ、モツト頭腦ヲ働カシテドノ術式デハドウ、アル症狀例ヘバ發熱ノアル場合ニハドウトイフ風ニ、種々ノ視角カラ詳細ニ觀察スルノデナケレバ頭ノイ、學術的ナ統計トハ云ヘナイ。從テコンナ報告デハ宿題報告タルノ價值ハ更ニ無イノデアル。

又「イレウス」ノ死因ニ關シテ小川教授ノ所説ヲ駁スルヤリ方ニシテモ、一カド皮肉ノ心算デアラウガ、餘リニ低級非禮デアル。ソレニ大分見當違ヒノ點モアツタ様ダシ、又實驗事實ノ證據ヲ示サズシテ（仕掛ノ大掛リナノニ拘ラズ表ハ極メテ少カツタ、殊ニ實驗成績ノ表ハマルデナカツタ）イキナリ斯ウダ、ア、ダト結果ダケ述ベテ反駁サレルノデアルカラ小川教授トシテハ随分云ヒタイ事モアツタデアラウ。

ソノ他演説ノ態度ニシテモ或ハ「腸ガ腐ル」<sup>1</sup>、「血ガ出ル」<sup>2</sup>、「水ヲアル」<sup>3</sup>トイフ様ナ用語ニシテモ、場處ガ日本外科學會總會場デアリ聽衆ガ眞面目ナ外科學徒デアル事ヲ無視シタ不眞面目ナヤリ方デアル。老大家ニナレバアレデモヨカラウト云フノハ惡趣味極マル。言語同斷デアル。

要スルニ鹽田教授ノ宿題報告ハ非學術的ノ一語ニ盡ルデアラウ。アレデハマルデ學術ノ何タルカヲ理解シナイ人ノ演説デアツテ大學教授ノ學術講演トハ思ハレナイ。尤モ吾國ノ所謂老大家ハ鹽田教授バカリデハナク、兎角東洋流ノ大家型トデモ謂ハウカ、學術的ナ細カイ計數、論理ヲ超脱シタ茫漠タル言説ヲナシタガル傾向ガアルガ、之ハ決シテ賞メタ事デハナイ。マシテソレヲ宿題報告トシテヤラレタノデハ聽ク方ガ堪ラナイ。

鹽田教授ハ最早御老體デアルシ、クダクダシク苦言ヲ呈シテ見タ所デ何ノ役ニモ立ツマイガ、敢テ以上ノ評ヲ試ミタ所以ハ二度ト再ビコノ様ナ宿題報告ノナイ事ヲ後進者ニ向ツテ希望スルカラデアル。

×

×

×

今年ノ學會ハ一般ニ淋シカツタ。淋シイト云フノハ聽衆ガ少カツタトイフ事デハナク、活氣アル討論ガナカツタカラデアル。追加討論トシテハ僅ニ第1日高橋君ノ演説ニ對シテ小澤教授及ビソノ門下ノ賑カナ追加ガアツタニ過ギナイ。

之ハ追加討論者ハ豫メ會長ニ其旨申込ミ一々演壇ニ上ツテ述べネバナラナカツタ所爲デアラウ。斯クスル事ニヨツテ舉足取りの或ハ愚劣ナ討論追加ハナクナリ、演説モヨク一般聽衆ニ徹底シ又會ノ進行モ極メテ圓滑ニ行ハレタガ、他面斯ル手續ヲトル事ガ臆劫ナ爲デアラウカ討論ガ出ナカツタ。一利一害デアル。討論スベキ演題ガナカツタトハ考ヘラレナイ。吾々ハ「逆行性腎剔除術」ヲ始メ「胸圍結核」ノ手術方針<sup>1</sup>、「肺結核」ノ手術方針<sup>2</sup>、「高位直腸癌」ノ手術方法<sup>3</sup>、「腸吻合後」ノ腸間膜間隙<sup>4</sup>等々スベテ先キニモ述べタ様ニ活潑ナ討論ノアル事ヲ豫期シテ居タ。寧ロ討論ヲ誘フ様ナ演題デアツタニ拘ラズ、何等ノ討論モナカツタ事ハ淋シカツタ。外科學會ガ診斷・治療・豫防等ノ外科實地カラ離レテ變ツタ軌道ノ方ヘソレツ、アル一ツノ徵候デハアルマイカ。學會ノ先達者ノ猛省ヲ促ガサネバナラス。

キチンキチント秩序整然ト物事ノ運ブ許リガ最上トハ思ハナイ。時ニハ多少脱線シタリ熱狂スル様ナ事モアツタ方ガヨイ。カンカンニ昂奮シテ討論スル様ナ人モアツタ方ガヨイ。

ヤリ込メラレハスマイカトビクビクスル様ナ臆病者ノ寄り合ヒデハ學術ノ進歩ハナイ。討論ノナイ學會ハ學會トシテノ意義ノ大半ヲ失ツテ居ルノデハアルマイカ。

ソレニハ本年ノ如キ方法モ、其ニ一般會員ガ訓練サレテサヘ居レバ結構ダガ、本年ノ様子デハ矢張り自席カラ自由ニ發言シ得ル様ニシタ方ガヨイト思フ。ソレニ會長モ演說ニヨツテハ自ラ討論ヲ誘ヒ、或ハ之ヲ指導スルトイフ様ニシテ欲シイト思フ。3日間瞬時モ會長席ヲ去ラストイフ外見ニノミ拘泥セズニ眞ニ學會ヲ活氣ヅケル様デナケレバ會長トシテハ不充分デアル、演說時間ナドモ機ニ臨ミ變ニ應ジ其ノ現場デ短縮延長種々ニスルガヨイ。ソレデアルカラ學會「プログラム」ノ上デ豫メ演說時間ノ延長ヲ約束シテ置ク事ハ却テヨクアルマイ、學會ガ沈滞スル一原因トナルデアロウ、此點大ニ考ヘルガヨイ。

宿題報告デモ、聴衆ノ大部分ニ『ツマラス』トイフ感ジヲ與ヘタモノニ對シ、キマリキツタ紋切形ノ謝辭ナドヲ述ベル必要ハ毫モナイ。其様ナ場合ニハ會長ハ注意シ苦言スルガヨイ。ソコニ會長ノ權威ガ活躍シ、學會ガハジメテ生動ノ氣ヲ帶ビルノデアル。會長ハ餘程精神ヲ鼓舞シ、餘程敏活ニ學會ヲ活カシテ働カセル工夫ヲスルガヨイ。

### 京都帝大醫學部ノ見學講習生制度ニ就テ

京都帝國大學醫學部デハ一般醫家ノ希望ヲ充タス爲、基礎及臨牀ノ各講座ニ就テ、次記要項ノ如キ、見學講習生制度ヲ設ケタ。詳細ハ醫學部事務室ヘ承合サレタイ。

期間 毎月初ヨリ其月終リヲ以テ1期間トシ、前月15日迄ニ申込ムコト。又繼續志望者ハ毎月新タニ出願スルコト。

定員 各講座ニ就キ5名以内。

見學講習料 1期間1講座ニ就キ10圓。

### 助教授任期2年制

京都帝國大學醫學部外科學教室デハ、人事ノ公正ヲ期スルタメ豫テカラ、講師、助手ノ任期ヲ滿2個年ト定メ任期ニ達シタル際ハ一旦辭表ヲ呈出シ、尙任期繼續ノ要アリト認メラレタル其際改メテ其旨教室主任ヨリ申渡サル、ヤウ内規サレテ居タガ、今般講師、助手ノミナラズ、助教授ニ就テモ亦タ之ヲ適用スルコト、ナリ、5月ヨリ實行ノコト、ナツタ。